

中国四国地域における水稲の現状



平成20年10月

中国四国農政局 生産経営流通部 農産課

1 稲作の現状

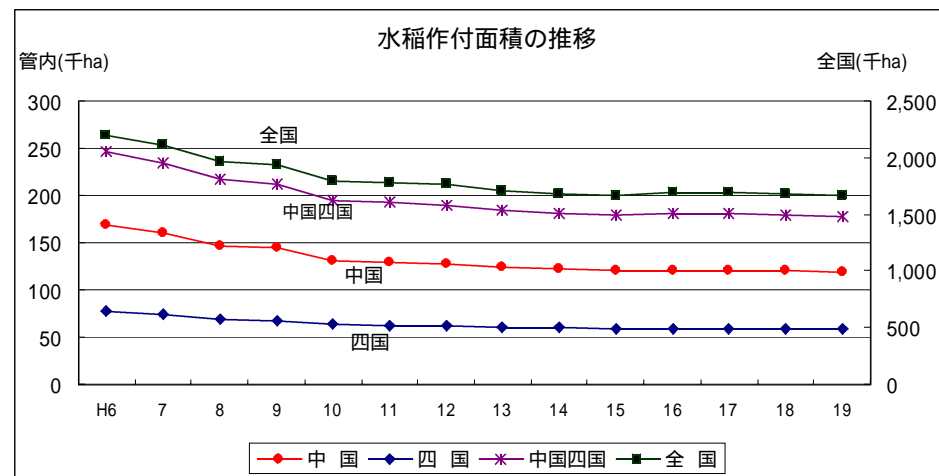
(1) 作付面積及び収穫量

作付面積

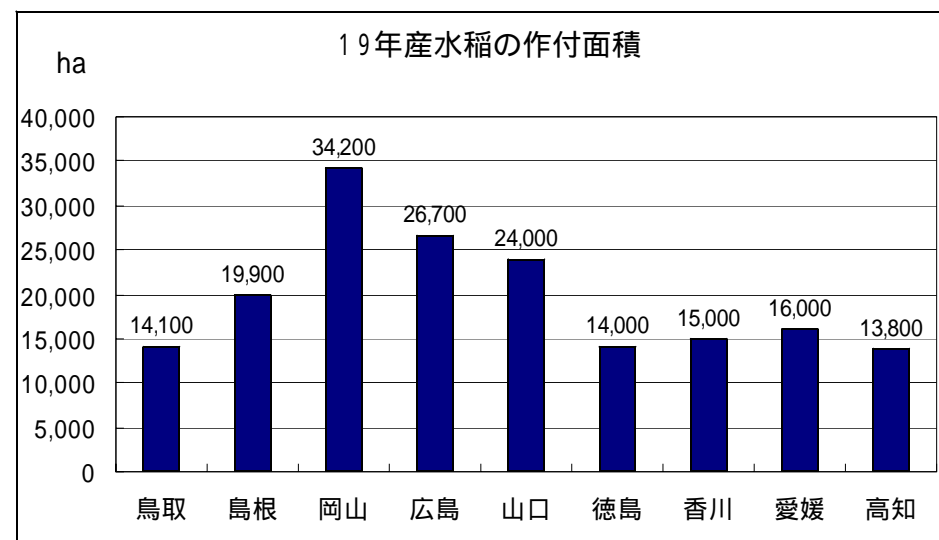
作付面積は、平成6年産以降は減少しており、平成19年産の全国に占める割合は約11%となっている。

地域別には中国が約119千ヘクタール(対前年比約98%)、四国が約59千ヘクタール(対前年比約99%)となっている。

県別には、岡山が34.2千ヘクタール作付されており、管内の作付面積の約2割を占めている。



資料：農林水産省統計部「作物統計」。但し19年値は速報値である。

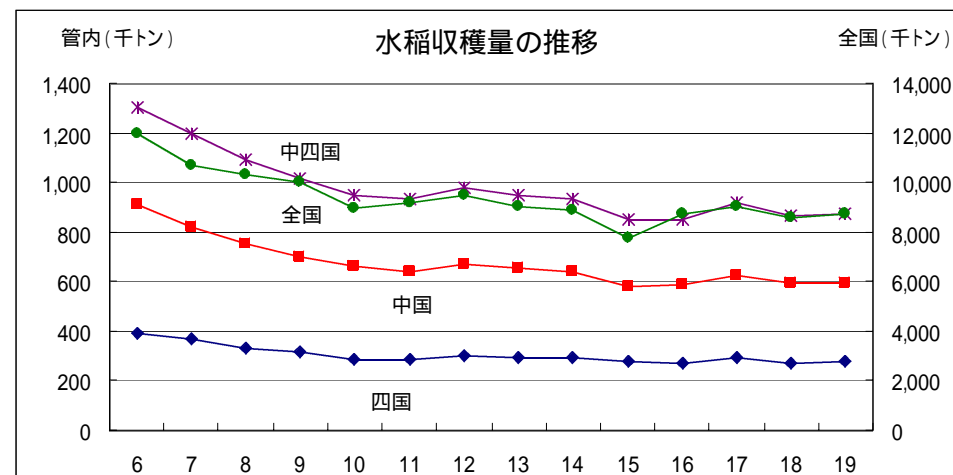


資料：農林水産省統計部「作物統計」。但し19年値は速報値である。

収穫量

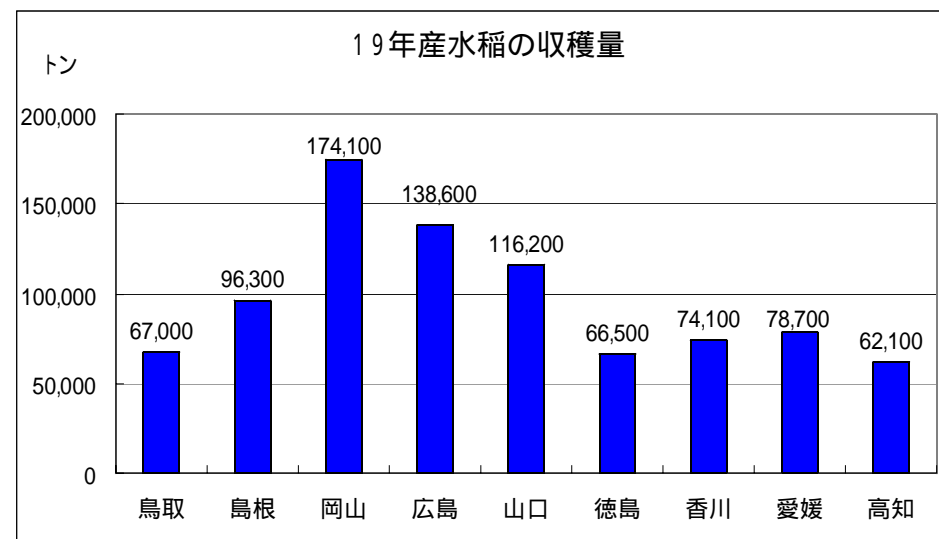
収穫量は、作付面積の減少に伴い減少しており、平成19年産の全国に占める割合は約1割となっている。

また、平成19年産の収穫量は、6月～7月（減数分裂期）の日照不足・台風等の影響があったものの、前年産に比べ1万500トン増加し、87万3,600トンとなった。



資料：農林水産省統計部「作物統計」。但し19年値は速報値である。

県別には、岡山が約174千トン収穫されており、管内の収穫量の約2割を占めている。



資料：農林水産省統計部「作物統計」。但し19年値は速報値である。

(2) 単位面積当たり収量

平年収量

10アール当たり平年収量の推移は、平成8年以降は収量水準の伸びが大きくなっている。

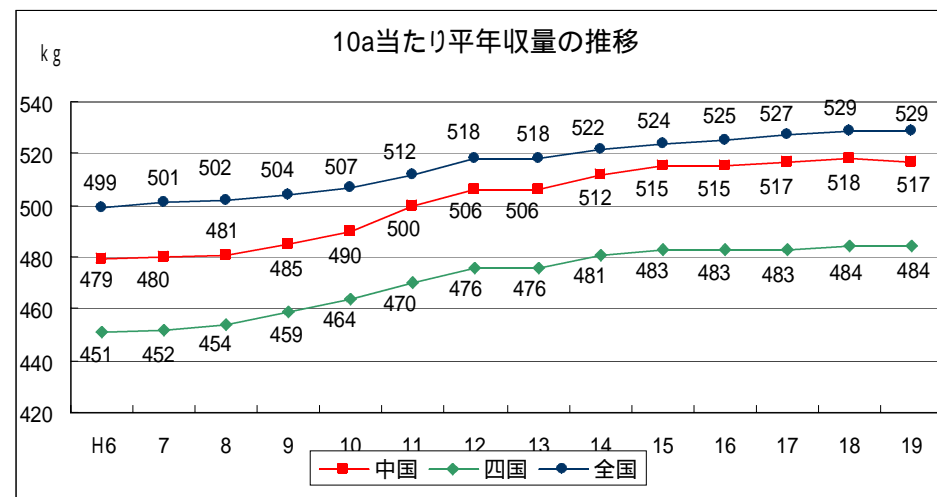
しかしながら、収量水準は全国に比べ低水準となっており、平成19年産は全国の529kgに対し、中国が517kg、四国が484kgとなっており、四国の収量水準がかなり低くなっている。

単収

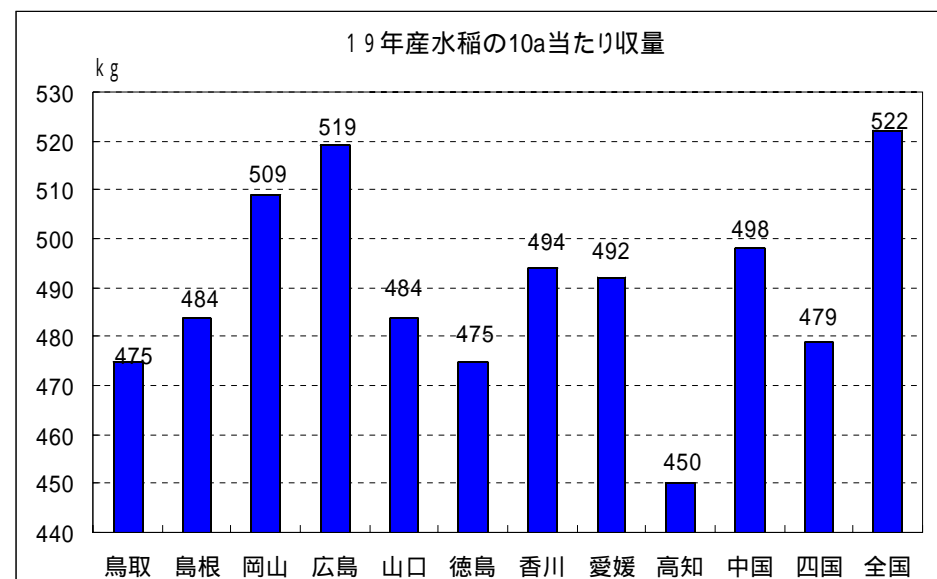
平成19年産の10アール当たり収量は、6月～7月(減数分裂期)の台風・日照不足等の影響があったものの、中国が498kg、四国が479kgで、前年産を上回っている。

作柄

平成19年産の作況指数は、中国96「やや不良」、四国99と「平年並み」となっている。



資料：農林水産省統計部「作物統計」。但し19年値は速報値である。



資料：農林水産省統計部「作物統計」。但し19年値は速報値である。

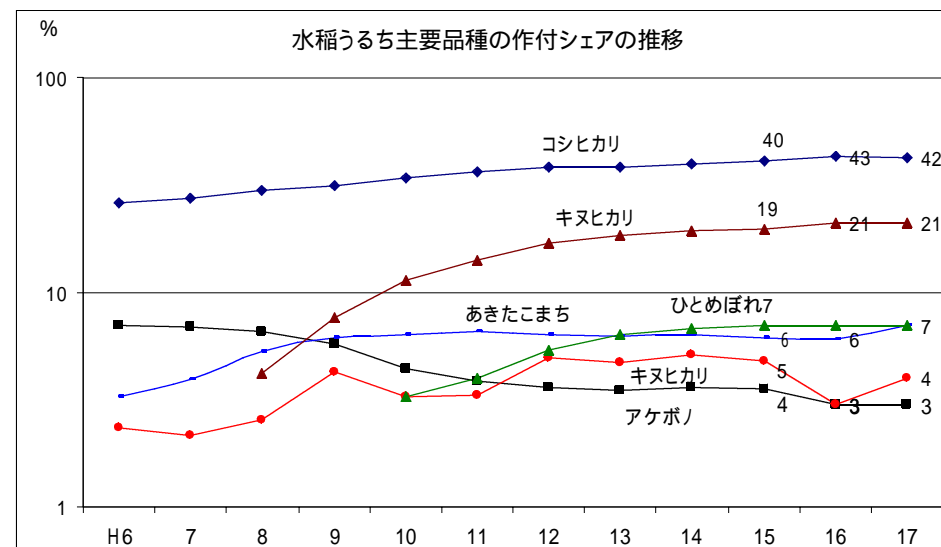
(3) 作付品種の状況

作付品種の変遷

管内の主要な作付品種の平成17年産のシェアは、コシヒカリ7万4,830ha(全体の41.5%)、ヒノヒカリ3万7,030ha(同20.6%)、ひとめぼれ1万2,660ha(同7.0%)、あきたこまち1万2,480ha(同6.9%)、キヌヒカリ6,870ha(同3.8%)が水稻うるちの作付面積の76.0%(前年比92.3%)を占めており、近年は、中四国管内県より、「みつひかり」群といった高収量・高品質性の品種の作付が増加している。

県別品種別作付面積

県別の作付品種の平成20年産のシェアは、コシヒカリが6県で第1位となっており、特に島根は約73%、鳥取、徳島、高知が50%程度を占めている。また、近年はヒノヒカリの作付が拡大しており、岡山、香川、愛媛で第1位となっている。



資料：総合食料局計画課「米穀の品種別作付状況」

水稻うるちの県別・主要品種作付面積(20年産)

単位：%

鳥取	コシヒカリ(58.7)	ひとめぼれ(32.6)	日本晴(2.2)	ヒノヒカリ(1.2)	ヤマヒカリ(0.6)
島根	コシヒカリ(73.1)	きぬむすめ(14.8)	ハナエチゼン(6.0)	ヒノヒカリ(0.7)	五百万石(0.4)
岡山	ヒノヒカリ(25.5)	アケボノ(17.3)	コシヒカリ(17.2)	あきたこまち(14.2)	朝日(10.6)
広島	コシヒカリ(38.2)	ヒノヒカリ(26.1)	あきるまん(8.3)	中生新千本(6.3)	あきたこまち(5.2)
山口	コシヒカリ(33.8)	ヒノヒカリ(28.0)	ひとめぼれ(23.8)	晴るる(3.9)	日本晴(3.2)
徳島	コシヒカリ(48.2)	キヌヒカリ(30.6)	ヒノヒカリ(7.6)	あわみのり(3.7)	ハナエチゼン(2.3)
香川	ヒノヒカリ(46.6)	コシヒカリ(37.3)	はえぬき(6.0)	オオセト(5.0)	あきたこまち(1.7)
愛媛	ヒノヒカリ(31.5)	コシヒカリ(28.4)	あきたこまち(28.1)	愛のゆめ(4.0)	キヌヒカリ(2.2)
高知	コシヒカリ(56.7)	ヒノヒカリ(25.0)	黄金錦(4.3)	ナツヒカリ(2.2)	あきたこまち(1.9)
全国	コシヒカリ(37.7)	ひとめぼれ(10.6)	ヒノヒカリ(10.3)	あきたこまち(8.0)	キヌヒカリ(3.4)

資料：総合食料局食糧部計画課「米穀の品種別作付状況」

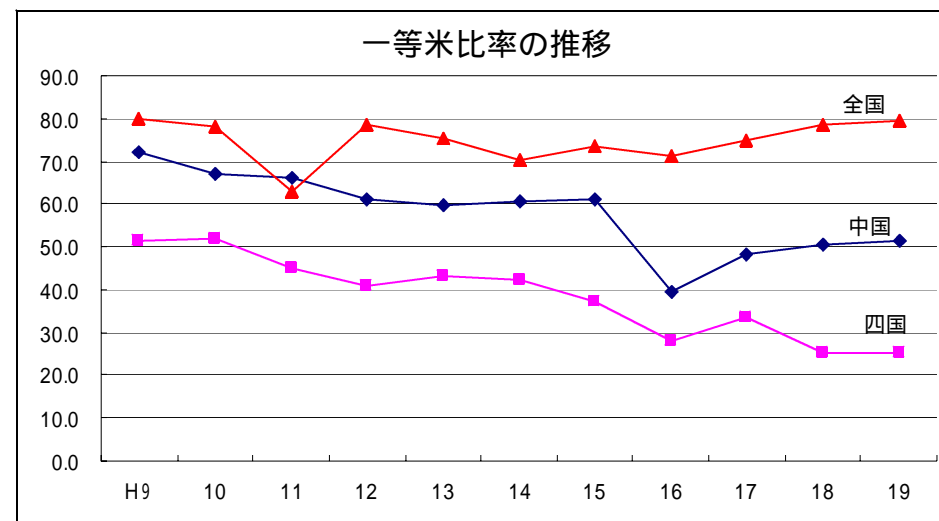
注：()内は作付面積に占める割合である。

資料：総合食料局計画課「米穀の品種別作付状況」

(4) 品質

水稻うるち玄米の1等比率は、中国、四国地方とも年々減少傾向にあり、平成19年産では50.8%と全国79.4%に比べかなり低い水準となっている。

2等以下に格付けされた主な理由は、充実不足、心白・腹白粒の混入によるものである。

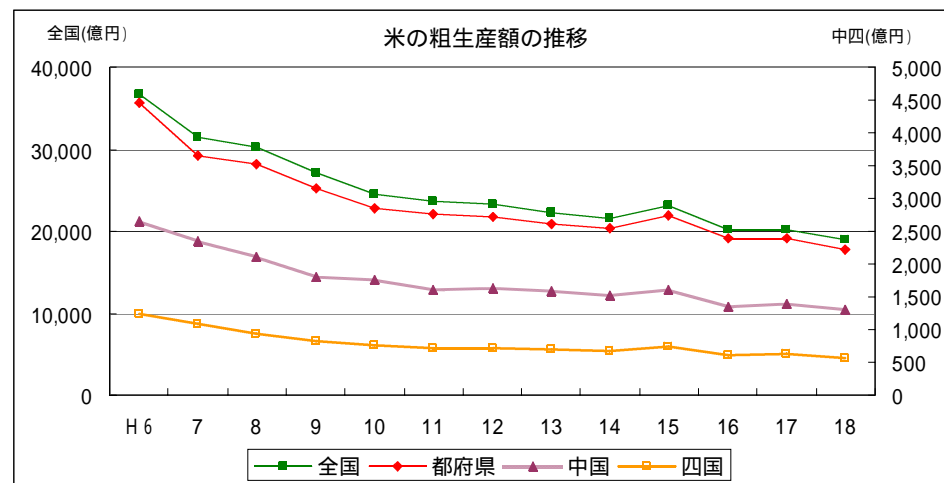


平成19年産米の検査等級(うるち玄米)

	等級比率 (%)			
	1等	2等	3等	規格外
鳥取県	67.5	29.3	0.9	2.4
島根県	68.6	28.4	2.5	0.5
岡山県	54.5	43.0	1.9	0.6
広島県	81.1	17.4	1.3	0.3
山口県	41.3	52.9	5.1	0.8
徳島県	54.2	43.4	1.9	0.4
香川県	6.9	92.1	1.1	0.0
愛媛県	38.9	55.5	2.8	2.9
高知県	5.6	53.9	31.5	9.1
中四国	50.8	43.7	4.2	1.3
全国	79.4	16.8	2.1	1.7

(5) 米の農業粗生産額

米の農業粗生産額は平成6年産以降減少しており、平成18年産は平成6年に比べ全国、管内とも約50%減少している。



資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」

平成18年産の県別の農業粗生産額に占める米の粗生産額の割合は、愛媛県を除き米が第1位となっている。

地域別には中国各県は米の占める割合が高く、中でも島根、山口は約40%と非常に高くなっており、四国各県は野菜・果樹の生産が多く、米の占める割合が低くなっている。

各県の農産物粗生産額の上位5品目とその割合(18年産)

単位：%

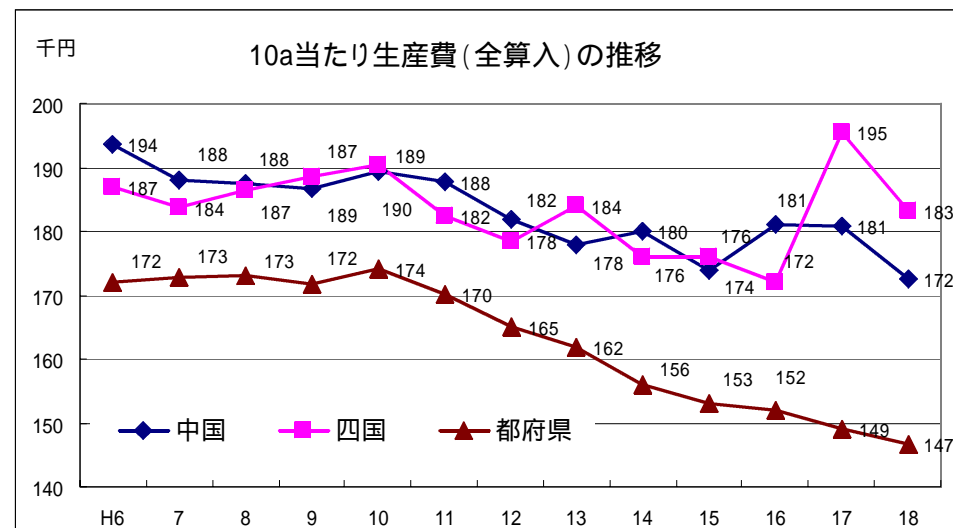
	第1位	2	3	4	5
鳥取県	米(23.4)	日本なし(8.9)	生乳(8.3)	豚(7.7)	ブドウ(7.0)
島根県	米(38.2)	肉用牛(11.7)	生乳(9.1)	鶏卵(4.8)	ぶどう(4.2)
岡山県	米(28.3)	鶏卵(14.3)	生乳(8.7)	ぶどう(8.1)	肉用牛(5.7)
広島県	米(27.3)	鶏卵(16.1)	生乳(5.8)	肉用牛(5.5)	みかん(4.8)
山口県	米(38.3)	鶏卵(10.7)	肉用牛(6.9)	ブドウ(3.8)	生乳(3.4)
徳島県	米(13.1)	ブドウ(9.0)	かんしょ(7.3)	にんじん(6.9)	肉用牛(6.1)
香川県	米(19.1)	鶏卵(11.2)	レタス(5.5)	生乳(4.5)	いちご(4.5)
愛媛県	みかん(16.2)	米(12.3)	豚(9.4)	いよかん(7.1)	鶏卵(5.4)
高知県	米(12.8)	なす(10.6)	みょうが(6.2)	きゅうり(5.9)	にら(5.6)

資料：農林水産省統計部「生産農業所得統計」

(6) 生産性
生産費

10アール当たり生産費は減少傾向にあるものの、都府県に比べ高く、平成18年産は中国が172,451円(対前年95.4%)、四国が183,159円(対前年93.8%)となっており、中国地域については都府県に比べ2割程度、四国については3割程度高くなっている。

内訳をみると、中国の農機具費及び四国の労働費が都府県と比べ5割程度高くなっている。



資料:農林水産省統計情報部「米及び麦類の生産費」

10アール当たり生産費(18年産)

単位:円、%

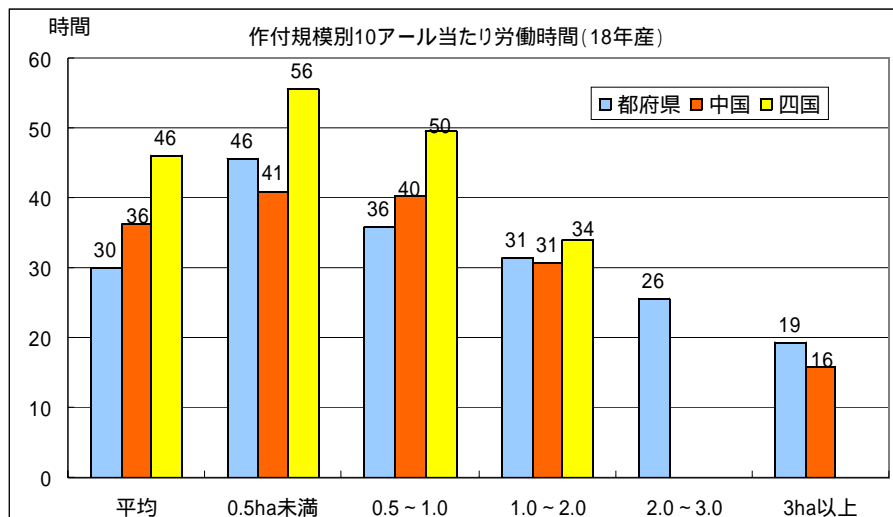
		物財費		労働費		生産費(副産物価額を除く)	全算入生産費
			うち農機具費		うち家族		
10a 当 た り 生 産 費	都府県	78,140	22,957	42,852	40,773	118,685	146,572
	中 国	97,973	35,504	53,612	49,872	149,061	172,451
	四 国	92,471	31,775	63,501	56,926	152,802	183,159
都 府 県 対 比	都府県	100	100	100	100	100	100
	中 国	125	155	125	122	126	118
	四 国	118	138	148	140	129	125

資料:農林水産省統計情報部「米及び麦類の生産費」

労働時間

10アール当たり労働時間は、減少傾向にあるものの、都府県に比べ多く、平成18年産は、中国が36時間、四国が46時間で、都府県(30時間)に比べ、それぞれ6時間、16時間多くなっている。

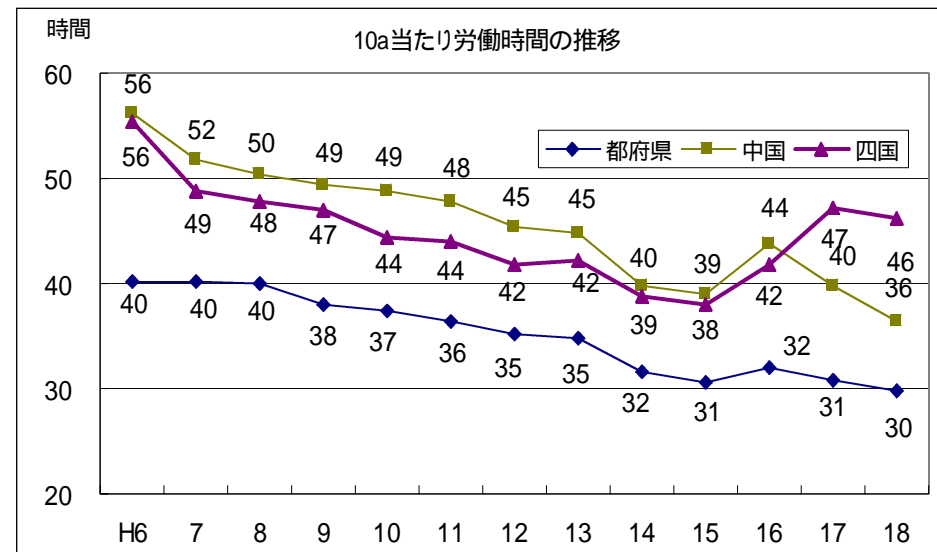
作付規模別の労働時間を都府県平均に比べると、中国は全体的に多くなっている。



資料: 農林水産省統計情報部「米及び麦類の生産費」

収益性

10アール当たり収益性は、粗収益は都府県に比べ1割程度の格差となっているが、所得率が低いことから所得は大幅に少なくなっている。



資料: 農林水産省統計情報部「米及び麦類の生産費」

10アール当たり収益性(18年産)

単位: 円、%

		稲経加入農家の補てん金を加えない場合				稲経加入農家の補てん金を加えた場合			
		粗収益	所得	家族労働報酬	所得率 /	粗収益	所得	家族労働報酬	所得率 /
収益性	都府県	114,061	28,872	5,955	25.3	116,585	31,396	8,479	26.9
	中国	105,858	1,295	-19,245	1.2	108,383	3,820	-16,720	3.5
	四国	99,626	-1,626	-29,777	-1.6	100,400	-852	-29,003	-0.8
都府県対比	都府県	100	100	100	-	100	100	100	-
	中国	92.8	4.5	-323.2	-	93.0	12.2	-197.2	-
	四国	87.3	-5.6	-500.0	-	86.1	-2.7	-342.1	-

資料: 農林水産省統計部「米及び麦類の生産費」

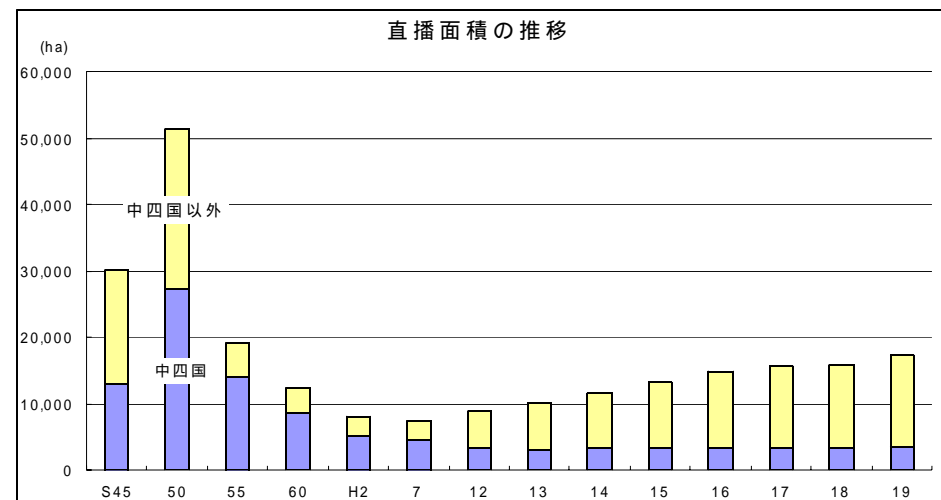
(7) 直播栽培

直播面積は、高度成長に伴う農業労働力の流出により、乾田直播栽培を中心に昭和49年には、全国で55千haまで普及したが、以降、田植機や育苗設備等の普及に伴い減少し、平成5年には7,200haまで減少した。

その後、高精度播種機の開発や播種後の落水出芽法の普及等により、湛水直播の栽培法が確立したことから、平成9年以降は増加傾向に転じ、平成19年(速報値)には約17千haまで拡大している。

管内では、岡山県で古くから乾田直播栽培を行われており、水稻作付面積に占める直播面積の割合(普及率)が8.5%と福井県につづいて全国第2位となっている。

また、近年は、広島県や山口県を中心に湛水直播栽培も増加傾向となっている。



資料: 農林水産省生産流通振興課調べ
平成19年産水稻における直播面積(速報値)

	水稻作付面積	直播面積											普及率	
		乾田直播		湛水直播										
		不耕起	散播	有人へリ	無人へリ	乗用播種機	背負動散機他	条播	点播					
鳥取	14,400	17	15	8	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1%
島根	20,000	62	9	0	53	13	0	0	4	9	39	1	0.3%	
岡山	34,200	2,904	2,893	217	11	4	0	0	0	4	7	0	8.5%	
広島	26,700	116	8	1	109	30	0	1	7	22	71	8	0.4%	
山口	24,000	203	30	27	173	172	0	0	0	36	0	0	0.8%	
徳島	14,000	22	0	0	22	0	0	0	0	0	21	0	0.2%	
香川	15,000	23	9	2	14	1	0	0	0	1	0	12	0.2%	
愛媛	16,000	62	7	0	55	1	0	0	0	1	27	27	0.4%	
高知	13,800	4	3	3	1	1	0	0	0	1	0	0	0.0%	
中四国計	178,100	3,411	2,974	258	438	220	0	1	11	72	167	49	1.9%	
	-	100%	87%	8%	13%	6%	0%	0%	0%	2%	5%	1%		
全国計	1,670,768	17,129	5,502	2,091	11,626	722	0	100	66	420	8,126	2,777	1.0%	
	-	100%	32%	12%	68%	4%	0%	1%	0%	2%	47%	16%		

資料: 農林水産省生産流通振興課調べ